



録画を配信

# 厳しさを増す酪農業への振興策をどうする

## 町長 耕畜連携により飼料の自給化に向け取り組む

### 酪農業の振興策

**問** 生産体制などへ継続的に支援すべきと思うが、所見を問う。

**町長** 耕畜連携による自給飼料生産をモデル的に実施できないか生産者団体や関係機関と検討している。

農地の有効活用策としても期待しており、実現に向けて引き続き取り組んでいく。

**問** 経済的な支援をどう考えていくか。

**農林課長** 引き続き状況をしながら対応していく必要があると考えている。



自給飼料の確保に向けて

**問** 酪農の現状は。

**農林課長** 令和4年度の生産額調査によると、生産額約10億4000万円、農家数24戸、飼育頭数1086頭。今年12月の状況では、農家数19戸、飼育頭数878頭である。

**問** 酪農をやめられた方の牧草地をどう活用していくか。

**町長** 農地をそのまま生かしていけるような環境をつくりながら、一つのアイデアとしてはデントコーンを取り入れていきたい。

酪農家のみならず、耕種農家の皆さんにもご理解いただいで考えていきたい。

### 農地の有効活用

**問** 農業の基盤である農地の有効活用をどう進めるか。

**町長** 将来の農地利用の姿を明確化する※「地域計画」の策定を目指していく。将来の土地利用を方向付ける重要な取り組みとして捉えており、地域の実情に合わせて徹底した話し合いとなるよう準備を進めていく。

**問** 地域計画策定の実施主体はどこか。

**農林課長** 最終的には町が策定するとなつているが、その計画に基づいて具体的に行動していただくのは、地域の皆さんである。

### 園芸振興対策

**問** 新規就農者の受け入れや担い手の確保対策と併せた園芸振興対策を伺う。

**町長** 白鷹町農業再生協議会や新規就農者受入協議会で議論を深め、さまざまな施策により対応していきたい。

**問** 園芸振興策として20万円を毎年予算化しているが、将来に向けた予算化の考え方は。

**農林課長** 市場動向、生産技術に精通した関係機関とも連携し、検討していく。

**問** 生産者団体などが将来ビジョンを町に

提示し、合議のうえ町が予算化していくべきと思うが、町長の考えを伺う。

**町長** 生産者団体で要望をまとめて提示していただければ、どうしても育成が可能かを考えていけると思う。

### 私もひとこと

酪農業の衰退は、地域の農業全体に大きな影響を及ぼすため、継続的に支援すべきです。(町内60代)

### ※「地域計画」

地域農業の在り方を示した「人・農地プラン」から「地域計画」に名称が変わり、「目標地図」の作成が新たに義務付けられました。「目標地図」は、高齢などにより耕作ができなくなった場合、次の耕作者へスムーズに引き継がれるよう、10年後の農地利用の将来図となるものです。



金田 悟 議員